松本市・上高地の取組が「Green Destinations TOP 100 Stories 2026」に選出されました！

一般社団法人 松本観光コンベンション協会



Green Destinations TOP100 2026



JSTS-D + International Certification

松本市・上高地のマイカー規制の取組が、持続可能な観光の国際的な優良事例として「Green Destinations Top 100 Stories 2026（世界の持続可能な観光地 TOP100 選）」に選出されました。地域で長年続けてきた自然保全の取組が国際的に認められた、大きな成果です。

このたびの選出を受け、授賞式への出席および現地での情報収集のため、当協会は松本市観光ブランド課の尾﨑 順課長とともに、スロベニアで開催された「Green Destinations Global Conference 2026」に参加しました。10 月 28 日の授賞式では、認定証の授与を受けました。

なお、本件では、宿泊税を活用しております。本稿では、授賞式や会議で得た学び、国内外の参加者との交流についてご報告します。

どんなストーリーが評価されたのか

タイトルは「マイカー規制 50 年 上高地が示した“自然保護こそ観光の基盤”という答え」です。上高地では 1970 年代、マイカーの急増とともに渋滞、違法駐車、排気ガス、路肩の植生へのダメージが深刻化しました。当時、地元が選んだのは、車を減らすことでした。1975 年、夏季限定のマイカー規制（日本初）を導入。1996 年には通年に広げ、訪れる人は上高地から離れた駐車場に車を置き、シャトルバスかタクシーに乗り換えて上高地に向かうこととなりました。導入当初は観光客の落ち込みを心配する声もありました。だが 50 年が過ぎた今では、観光地としての価値はむしろ高まったことを訴求しました。

今回の選出は、上高地の自然を守ってきた皆様の長年のご尽力が実を結んだ結果です。保全に携わってこられた皆様と、利用ルールにご協力いただいている皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

受領した賞状と授賞式の様子

10 月 28 日に開催された「GD2026 Conference Dinner & Awards Ceremony」にて、松本市の取組に対する認定を受けました。



松本市に贈られた 2026 年 TOP100 選出の賞状



写真 1　TOP100 選出を受けて授賞式で記念撮影



写真 2　GD2026 の授賞式会場

会議で学んだプロテウスと地下水の保全

大会では、開会式や全体会議・分科会に参加し、自然保全と観光を両立する取組について学びました。特に印象に残ったのは、10 月 28 日の自然保全に関する分科会です。自然を守る取組を観光地の運営に取り入れ、旅行者の体験や地域の利益につなげる方法がテーマでした。

その中で紹介されたのが、プロテウスと地下水の保全です。プロテウスは、オルムとも呼ばれる両生類で、スロベニアなどの地下水に生息しています。暗い地下の環境に適応している一方、生息環境の変化に非常に弱い生物です。

最も心に残ったのは、この生物を守ることが、住民の飲み水を含む水資源を守ることにも直結しているという点でした。プロテウスが生き続けるためには、そのすみかである地下水の環境を保つことが欠かせません。地下水は人々の暮らしにも不可欠な水資源であり、自然保全と住民の生活は深く関わっています。

地下水の保全を考えるには、地上での活動にも目を向ける必要があります。研究機関の資料では、農業や排水、地下水の利用などが生息環境に影響を与えることが示されています。洞窟の中で生物を保護するだけでは、こうし

た影響に十分対応できないため、水の流れや周囲での利用状況も含めた視点が求められます。

また、研究によって地下の環境を把握し、その大切さを地域の人々や旅行者に伝えることも重要です。旅行者が保全の理由を知る機会をつくり、行政、研究者、事業者、住民が協力することが、持続可能な観光地の運営に必要だと学びました。

松本にも湧水や井戸があり、水は地域の暮らしや文化と深く結びついています。今回の話を聞き、自然を案内する際には、その美しさや珍しさに加え、暮らしとの関係や、守るために必要な行動を伝えることが大切だと感じました。今後、観光案内や保全に関する施策を検討する際にも、大いに参考にしたい視点です。



写真 3　プロテウスと飲み水の資源についての発表

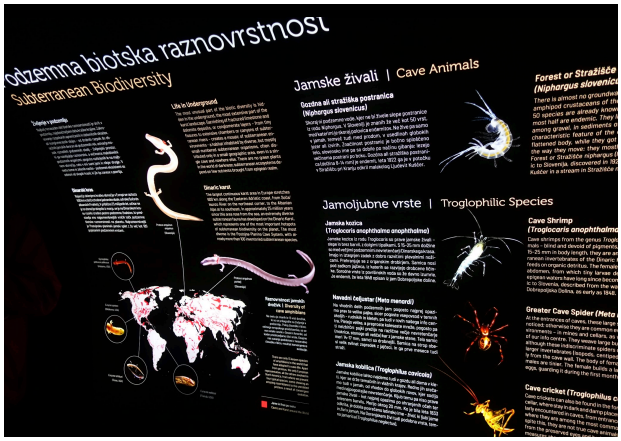


写真 4　会議中の説明や発表資料

日本からの参加者と交流を深めました

今回の大会では、日本から参加した各地域の皆様と、時間をかけて交流することができました。会議への参加に加えて、国内の関係者と直接お話しし、互いを知る機会を持てたことも、今回の渡航における大きな収穫です。

同じ日本から国際会議に参加した皆様とのつながりを、今後も大切にしたいと考えています。それぞれの地域での経験を知り、必要に応じて情報を交換できる関係は、松本の取組を考える際にも大きな力になると感じました。

海外の参加者とも多くの会話を交わしました

海外から参加した各国の関係者とも積極的に対話を重ねました。会議で紹介される事例を聞くことに加え、実際に地域で活動する方々と直接交流できたことは、国際会議ならではの貴重な経験となりました。

地域によって自然環境や観光の状況は異なります。さまざまな背景を持つ参加者と接することを通じて、松本で普段行っている取組が外からどのように見えるかを考える機会にもなりました。今回の交流で得た視点を、今後、地域の取組を整理し、発信する際の参考にしたいと考えています。



写真 5　日本からの参加者との交流



写真 6　海外からの参加者との交流

来年も別の取組で応募に挑戦したいと考えています

来年は、今回とは異なる松本の取組をテーマに、再び TOP100 への選出を目指して挑戦したいと考えています。どの取組を取り上げるかは、地域の皆様が続けてきた活動や、その経緯を確認しながら丁寧に検討してまいります。

応募に向けて取組を整理することは、地域で何を守り、どのような工夫を重ねてきたのかを見直す良い機会にもなります。今回の会議で得た学びと交流を糧にしながら、松本の取組を国内外の方々に分かりやすく伝えてまいります。